

平成 25 年度 札幌市研究開発事業 「平和に関する教育」 実践研究

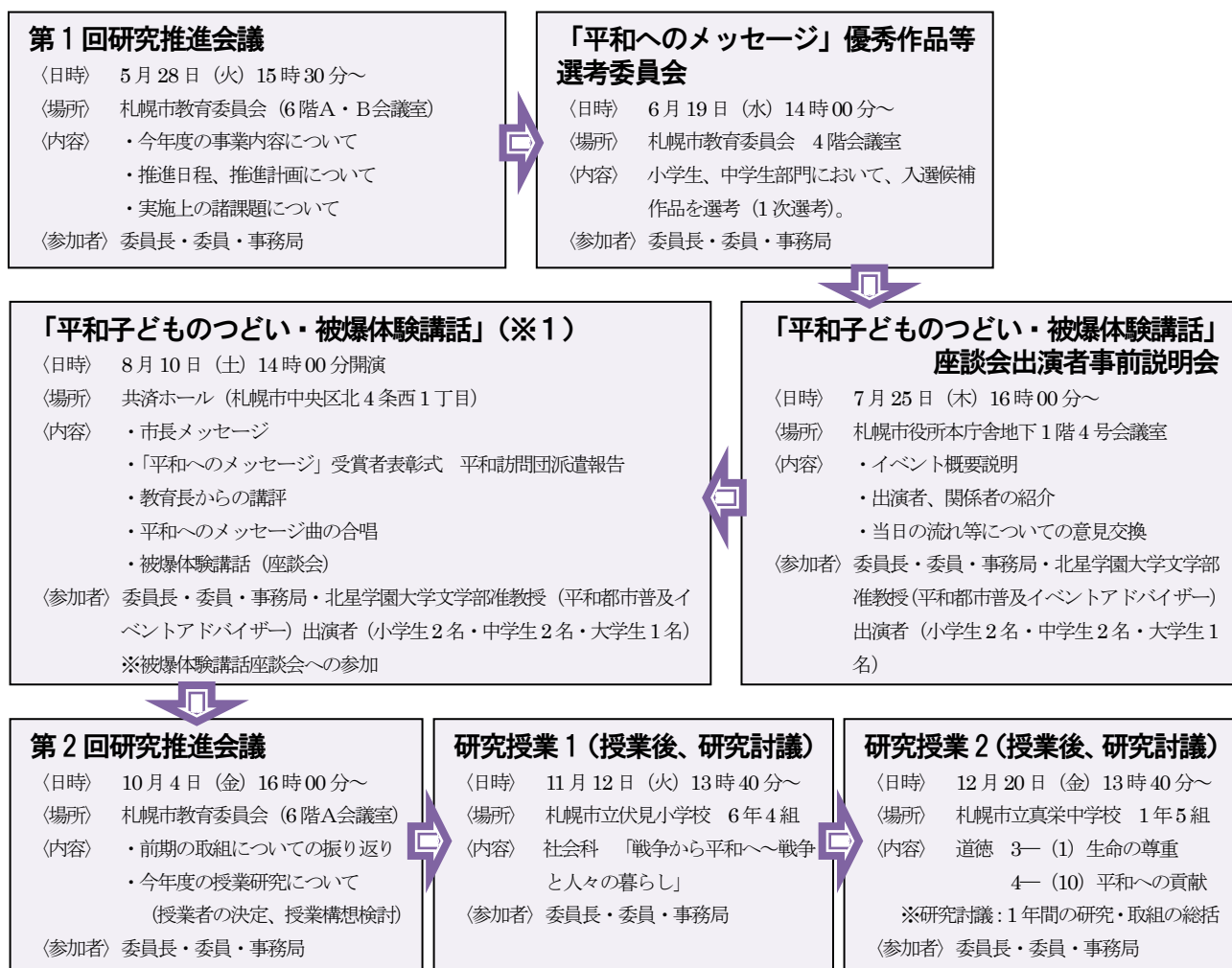
1 研究の内容・方法

- 小学校や中学校、高等学校の校種ごとに、平和に関する教育を実践するための教材開発や指導方法の工夫等について実践研究を行い、平和に関する教育の普及啓発を図る。
- 児童生徒の発達の段階に応じた「平和に関する教育」における体験的な活動、平和な国際社会の実現を目指す取組などに関する理解を図るとともに、自らの考えを深める指導の在り方などについて実践研究する。
- 各区主催の平和事業における地域の語り手の「お話」をまとめた「札幌市民の戦争体験～平和に関する学習資料」や区政課が作成したHP「平和バーチャル資料館」等を活用した学習展開や指導方法について、研究授業を実施するなどして、研究仮説の検証を行う。

2 委員構成

委員長	市立信濃小学校長	尾田 正則	事務局	札幌市教育委員会
委員	市立伏見小学校教諭	山田 透		指導担当課長 齊藤 隆浩
	市立幌南小学校教諭	吉田 卓矢		札幌市教育委員会指導主事 伊達 峰史
	市立真栄中学校教諭	井上 友美		札幌市教育委員会指導主事 菅野 智広
	市民まちづくり局			
	平和事業担当係長	田中 麻季		

3 平成 25 年度の研究・取組内容



※1 「平和子どものつどい・被爆体験講話」HP <http://www.city.sapporo.jp/shimin/heiwa/hukyu.html>

4 平成 25 年度の授業研究を振り返って① 小学校

小学校の実践

実践校：伏見小学校 6年4組

授業者：山田 透 教諭

社会科：単元名「戦争から平和へ～戦争と人々の暮らし」

本時のねらい：戦争中の子どもの生活に問題意識をもち、平和に関する学習資料や教科書を基に調べる中で、子どもたちは**戦争の影響を大きく受けた生活をしていたことに気づき**、稲田さんの立場から当時の生活を振り返ることで、**当時の子どもの気持ちに迫る**。(思考・判断・表現)

成果

- ・ 「現在と戦争時の比較」「戦争体験談の読み取り」「教えて考えさせる」という**ベーシックな授業展開**であった。
- ・ 1時間の授業の中で子どもがどのような変容を遂げたのかを**評価しやすい授業展開**であった。
- ・ 本時に至るまでの単元構成の中で、**「札幌市平和バーチャル資料館」(※2)**を活用した調べ学習を進め、基礎的・基本的な知識の習得を図ったことは、**考えさせる授業を構築していく前段階として効果的**であった。
- ・ **「平和に関する学習資料」(※3)**の内容を読み取る時間が確保されており、**その内容を根拠とした話し合い**がなされていた。
- ・ 「平和に関する学習資料」について、**挿絵の活用は、当時のイメージ化を図る上で有効**であった。
- ・ 「平和に関する学習資料」について、**体験談(一話)を全て提示するのではなく、意図をもって部分的に提示しているのは、子どもの思考の焦点化を図る上で効果的**であった。

授業の再構築

- ・ 「当時の子どもは、(国の)期待に応えている」「当時の子どもは、(この生活状況を)当たり前と思っている」といった**子どもの発言をもとに問い直し**をすることで、さらに**子どもの思考を揺さぶる**ことができたのではないかと。
- ・ 遊びの中に戦争が入ってくるという点に、**子どもの思考を深く掘り下げる教材としての価値**があったのではないかと。
- ・ 授業の最後に、ゲストティーチャーとして、稲田さん(体験談著者)のお話があると、**授業の内容に説得力が生まれた**のではないかと。
- ・ 「学習」「働く」「遊び」という三つの窓口から、当時の戦争中心の生活に迫っていたが、そこからわかったことをまとめて解釈し、表現する(書き留める)個人としての時間を確保してあげることで、**子どもの思考を促し、戦争や平和に対して、より自分事として、捉えさせる**ことができたのではないかと。

確認事項

- ・ 戦争体験の生の声を、子どもたちにどう伝えていくか、ということが今後の課題となる。そこで、「平和バーチャル資料館」の体験談(動画)を活用した授業開発をしていく。
- ・ 平和教育で大切なことは、「**事実確認をすること**」「**子どもの意識に近いものを学習課題とすること**」


※2 「札幌市平和バーチャル資料館」HP <http://www.city.sapporo.jp/ncms/shimin/heiwa/>

※3 「平和に関する学習資料」HP <http://www.city.sapporo.jp/ncms/shimin/heiwa/library/taiken/>

単元のねらい

日本が行った戦争について問題意識をもち、戦争の経緯や戦時中の暮らしについて追求する中で、日本が戦時体制に移行し、戦争によって大きな被害を受けたことが分かる。

単元構成（9時間扱い） 本時6／9

お も な 学 習 活 動		
1	<p>空襲後の東京の写真 教科書 p 116</p> <p>どうして戦争を始めたの？</p> <p>戦争中はどのような生活をしていただろう？</p> <p>日本が行った戦争について調べよう</p>	
2	<p>日本はどのように戦争を始めたの？</p> <p><昭和初めの日本> ・不景気 ⇒失業、苦しい生活</p> <p><軍人・政治家> ・満州の獲得 ⇒国民の生活向上</p> <p>1931年満州事変 ・日本が満州を占領 ・国際連盟脱退</p> <p>国民の生活をよくしようとして、戦争を始めたんだね</p>	
3	<p>日本の東南アジアへの勢力図 教科書 p 121</p> <p>日本はどのように戦争を広げたの？</p> <p><東南アジアに> ・石油やゴムなどの資源を求めて ・白人からの解放</p> <p>資源を求めて</p> <p><米・英に> ・日本を警戒 ・日本への輸出制限（石油、鉄）</p> <p>資源を求めて東南アジアに広げた結果、アメリカなどとも戦争することになったんだね</p>	
4	<p>戦争中、人々はどのような暮らしをしていたの？</p> <p><兵士> ・徴兵検査 ・召集令状 ・戦争現場</p> <p><国民> ・配給 ・空襲への備え ・隣組</p>	<p>※平和に関する学習資料や札幌市平和バーチャル資料館のホームページを活用。</p>
5	<p>○個別に視点を持ち、調べ学習を行い、ワークシートにまとめて発表し合う。</p>	
6	<p>戦争に勝つために、我慢して厳しい暮らしをしていたんだね</p>	
7	<p>戦争中、子どもはどのような生活をしていただろう？</p> <p><学校生活> ・戦争訓練 ・立派な兵士になるよう教育</p> <p><労働> ・工場の手伝い ・農業の手伝い</p> <p><遊び> ・兵隊ごっこ ・子ども雑誌にも兵士の記事</p> <p>子どもも戦争の影響を大きく受けた生活をしていただろう</p>	<p>戦争中</p>  <p>※平和に関する学習資料① p 60「戦時中の子どもたちの生活」を活用。</p>
8	<p>現在</p> <p>・学校で勉強 ・習い事 ・様々な遊び</p>	
9	<p>空襲の様子 教科書 p 126</p> <p>日本は空襲でどのような被害を受けたのかな？</p> <p>死者約 20 万人 北海道でも被害 アメリカとの軍事力の差</p> <p>アメリカとの圧倒的な軍事力の差で大きな被害を受けたんだね</p> <p>戦争は、どのようにして終わったの？</p> <p>原子爆弾投下 ポツダム宣言受諾</p> <p>原子爆弾を落とされ、日本が降伏して戦争が終わったんだね</p>	<p>※平和に関する学習資料④ p 48「助かった命で伝えること」活用。</p>

本時のねらい

戦争中の子どもの生活に問題意識をもち、平和に関する学習資料や教科書を基に調べる中で、戦争の影響を大きく受けた生活をしてきたことに気づき、当時の子どもの気持ちに迫ることができる。(思考・判断・表現)

本時の展開 (6/9)

おもな学習活動

前時までの子どもの姿 戦争中の兵士や国民が、勝つために厳しい暮らしをしていたことを理解している。

日本が行った戦争について調べよう

現在

- ・学校で勉強
- ・習い事
- ・様々な遊び

子どもの生活

戦争中

○現在の子ども生活と平和に関する学習資料の挿絵を比べることで、戦争中の子どもはどのような生活をしてきたのか考えるようにする。

○戦争中の子ども生活について、平和に関する学習資料①p60「戦時中の子どもたちの生活」の稲田さんの話や教科書を基に調べて発表したことを学校生活・労働・遊びに分類し、戦争に大きく影響を受けた生活をしてきたことが分かるようにする。

戦争中、子どもはどのような生活をしてきたのかな？

稲田さん

労働

- ・労働力不足のため工場に働きに行く
- ・働き手の少ない農家に手伝いに行く

学校生活

- ・戦争に向けて訓練
- ・立派な兵士になるような教育
- ・教科書の内容も戦争中心
- ・質素なお弁当

遊び

- ・兵隊ごっこなど戦いの遊び
- ・子どもの雑誌にも兵隊のことが載っている

○学校でも、勉強よりも戦争への訓練が多かったんだ。
 ○兵士になるように教育されていたんだね。
 ○小中学生も向上や農家に働きに行かせられたんだ。
 ○遊びも戦争に関することだったんだね。
 ○子どもの生活も戦争の影響を大きく受けていて、可哀相だ。

戦争中心

子どもも戦争の影響を大きく受けた生活をしてきたんだね

○稲田さんの立場から当時の生活を考えさせることで、当時の子どもの気持ちに迫る。

稲田さんは、このような生活をどのように思っていたのかな？

何でこんな大変な生活をしないといけないんだ

戦争に勝つためだから仕方がないと諦めている

戦争するのが当たり前で、何も疑問に思わなかったかも

十分に食べることもできなくてつらかった

○何でこんな大変な生活を送らないといけないんだと思っているよ。
 ○戦争に勝つためには仕方がないと諦めているかな。
 ○戦争中心の教育を受けているから、当たり前だと思っていたかもしれない。

子どもも大変な生活をしてきたんだね

中学校の実践

実践校：真栄中学校 1年

授業者：T1 田畑 翔基 教諭 T2 井上 友美 教諭

道徳：主題名「生き抜く」 3－（1）生命の尊重 4－（10）平和への貢献

本時のねらい：生命の尊重と平和について考える。（思考・判断・表現）

成果

- ・ **社会科だけでなく、道徳という領域においても、「平和に関する学習資料」(※3)を活用した授業が展開できることを実践例として残すことができた。**
- ・ 戦争体験者（ゲストティーチャー）のメッセージを生徒は素直に受け止めていた。**戦争体験者の生の声を聞くということそのものが、戦争や平和を自分事として捉える上で効果的であることがわかった。**
- ・ 授業の最後の「山田さん（ゲストティーチャー）は、何を伝えに来たのか」という問い直しは、**生徒の思考の深化を促す上で効果的であった。**

授業の再構築

- ・ 「なぜ」で問う課題を設定し、**一時間を貫く課題として明確にすることで、より生徒の思考を揺さぶることができたのではないか。**
- ・ 「平和な今」と「戦争時」の違いをより深く感じ取らせるためにも、「平和に関する学習資料」をもう少しじっくりと時間をかけて読み取らせたかった。**読み物資料は、事実認識を図る上で有効である。**
- ・ **生徒の心の変化がわかるような板書やワークシートを工夫していくことで、1時間の学びを生徒自身が実感できるようになるのではないか。**
- ・ グループ討議が、それぞれの意見の確認の場となってしまう、思考をゆさぶる意見交流の場とはならなかった。討議をねらいとするのなら、**対立構造を生むような討議の柱（テーマ）が必要であった。**
- ・ 戦争体験者（ゲストティーチャー）に読み物資料を補完するような内容や、読み物資料にはない体験談について、より語ってもらえると効果的である。その上で、**ゲストティーチャーと生徒間のやりとりがあると、学習効果が上がったと思われる。**
- ・ 授業のねらいに迫るためには、**戦争体験者（ゲストティーチャー）の登場場面をいつにするかも重要なポイントである。**

確認事項

- ・ グループ討議については、討議のテーマにもよるが、**教師がファシリテータとなりながら、生徒への問い直しをしていく全体交流の方が、一人一人の思考を揺さぶったり、生徒間の思考をつなぐ上で効果的な場合がある。**
- ・ **平和教育は、「今の生活状況が当たり前ではない」ということを知ることが大切である。**
- ・ 戦争はいけないうこと、平和が大切ということ、生徒は頭ではわかっているが、心ではわかっていないところがあるため、**事実認識をしっかりと持たせること、「なぜ戦争はいけないうのか」「なぜ平和が大切なのか」を掘り下げて問うことが必要である。**
- ・ **ゲストティーチャーは有効であるが、あくまでも授業者は教師であり、事前に、授業の流れ・ねらい・話していただく内容について、綿密な打合せが必要である。**

※3 「平和に関する学習資料」HP <http://www.city.sapporo.jp/ncms/shimin/heiwa/library/taiken/>

1. 主題名 **生き抜く 3 - (1) 生命の尊重 4 - (10) 平和への貢献**

2. 本時のねらい

- 生命の尊重と平和について考えを深める。

3. 資料

- 資料名「決死の航海～生きて日本にもどりたい～山田三郎さんのお話から」
出典「札幌市民の戦争体験平和に関する学習資料②」

4. 指導過程

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 事 項
導 入 5	<p style="text-align: center;">「人はなぜ生きるのか」「なぜ命を大切にしなければならないのか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しむため ・夢を叶えるため ・産んでもらったから ・よくわからない… 	<ul style="list-style-type: none"> ・問いを板書（提示）する。 ・多くの生徒の考えを聞く ・数名の考えを板書する
	<p style="text-align: center;">戦争体験資料を読んで、生きることや命について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦争体験の範読を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・戦争体験資料は、札幌市で戦争体験者から聞き取ったことをまとめたものであることを説明する。冊子を見せる。 ・範読し、あらすじを確認する。
展 開	<p style="text-align: center;">資料題名『決死の航海～〇〇〇日本にもどりたい～』 〇〇〇に入る言葉は何だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「絶対」 ・「必ず」 ・「生きて」 ・「死なずに」… 	<ul style="list-style-type: none"> ・範読後、ワークシートを配布する。 ・生徒の考えを聞く。 ・山田さんを紹介する。 ・実際の題名を提示する。
	<p style="text-align: center;">「なぜ命を大切にしなければならないのか」 「生きるために何が必要か」みんなで考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに自分の考えを記入する。 ・小グループで互いの考えを交流する。 ・各グループの考えを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人→グループワークの指示をする。 ・山田さんにも机間巡視をしていただく。 ・グループの考えを発表させる。 (ポイントを板書する)
25	<p style="text-align: center;">最後に「未来に向けて自分ができること」を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山田さんの話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの様子を見た感想や戦争体験を語る理由、生徒に伝えたいことをお話ししていただく。
40	<p style="text-align: center;">山田さんが伝えたいことを聞こう。</p>	
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをワークシートに記入する。 (本時の感想も記入する) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入させる。 ・適時発表させる。 ・戦争体験を後世に伝えていく必要性を確認し、伝えていくのは「自分たち」であることに気付かせる。
50		

5. 本時の評価

- 山田さんの体験や考えから、生きることの素晴らしさや平和の大切さに気づき、今後の生き方の参考にしようとする事ができたか。

道徳ワークシート (月 日)

____年 ____組 ____番 名前 _____

○資料題名 『決死の航海~ 日本にもどりたい~』

出典：「札幌市民の戦争体験平和に関する学習資料②」

○「なぜ命を大切にしなければならないのか」 ○「生きるために何が必要か」

自分の考え	自分の考え
グループの考え	グループの考え

○未来に向けて自分ができること

----- ----- -----

○今日の授業の感想

----- -----
